

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第3回松阪市の住民自治のあり方検討会
2. 開 催 日 時	平成30年3月22日（木） 午後1時30分～午後2時50分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 5階右第1・第2会議室
4. 出席者氏名	○出席者： （松阪市住民協議会活動推進委員会） 中山一男、脇田博之、垣本長生、水谷勝美（兼任） （松阪市自治会連合会） 小山利郎、山本勝之、田上勝典、水谷勝美（兼任） （松阪市公民館連絡協議会） 小川祐治、中村悦郎、西口秀美 （松阪市自治会連合会事務局）西岡史穂 （事務局）山路副市長、加藤企画振興部長、奥野地域振興担当理事、高木地域づくり連携課長、村林地域連携担当監、深田教育委員会図書館改革推進担当参事兼生涯学習課長事務取扱
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	2名（内報道2名）
7. 担 当	松阪市 企画振興部地域づくり連携課 TFL 0598-53-4399 FAX 0598-22-1377 e-mail commu.div@city.matsusaka.mie.jp

○事項

1. あいさつ
2. 前回の検討会の報告及び以降の取り組みについて
3. 前回の提案事項に対する各団体の意見
・市が示す各ステップの内容他について
4. 今後の進め方について
5. その他

◎会議内容は別紙のとおり

第3回 松阪市の住民自治のあり方検討会 会議結果報告 (会議要旨)

1. 日 時: 平成 30 年 3 月 22 日(木)午後 1 時 30 分～午後 2 時 50 分
2. 場 所: 松阪市役所 5 階右第 1・第 2 会議室
3. 出席者: 松阪市住民協議会活動推進委員会 4 名(内 1 名兼任)
中山一男、脇田博之、垣本長生、水谷勝美(兼任)
松阪市自治会連合会 4 名(内 1 名兼任)
小山利郎、山本勝之、田上勝典、水谷勝美(兼任)
松阪市公民館連絡協議会 3 名
中村悦郎、西口秀美、小川祐治
松阪市自治会連合会事務局 1 名 西岡史穂
事務局 6 名
(松阪市副市長)山路 茂、(企画振興部長)加藤正宏、(企画振興部地域連携担当理事)奥野義彦、(地域づくり連携課)高木達彦・村林由美子、(教育委員会図書館改革推進担当参事兼生涯学習課長事務取扱)深田政己
(欠席者:4 名(住民協議会活動推進委員会)山本 均、(自治会連合会)小林平八郎、(公民館連絡協議会)常保尚郎・古市 仁)
4. 公開 2 名 (内報道 2 名)

(13 時 30 分開始)

事項書1. あいさつ

《山路副市長 あいさつ》

事項書2. 前回の検討会の報告及び以降の取り組みについて

※事務局より・資料1(前回までの検討会の報告)

・資料2(前回検討会后、各会議にてあり方での提案内容説明の訪問経過とその主な意見等の報告)

事項書3. 前回の提案事項に対する各団体の意見

※事務局より (市が示す各ステップの内容他、住民自治のあり方について 説明)

➤事務局:前回の提案事項に対する各団体のご意見を賜りたい。

➤自治会連合会:老人は増え子どもは少なく、そんな中で今までの自治会活動以上に地域に目配り気配りしていかなければならない。これ以上地域の連合会に仕事が増えては困る。行政が各地域を回って説明いただいたが意見は多種多様で、役員会を開いたがまとまらなかった。できれば行政の方でこれを基に方向性を出していただければ、またそれに対しての意見が出ようかと思っている。

➤住民協議会:昨年 10 月 20 日に会長会議を開き、説明をさせていただいた。これまで4代の市長が深く関わってきたこと、自治会連合会との違い等を説明した。その場では大きな質問

もなく認識していただいた。行政からの提案事項についても説明し、各地区へ戻って検討してもらう形で終わった。その後意見集約をしなかったが、行政から投げられたボールに対しては検討している。

- 公民館: 今、公民館事業は地域によって様々なスタンスがあるが自治会長、住民協議会もその運営の中には携わってもらっている。従前の住民協議会発足前とほぼ同じような形で活動している。地域によっては自治連合会、住民協議会、公民館それぞれがやっていると、一本化しているところもあり地域によって様々である。
- 事務局: 3つの組織の方々から協議結果の報告をいただいた。行政が地域にお願いしている業務についても整理し考えていく必要がある。このことについて行政で勝手に決めるわけにいかない。皆さんと協議していくことになる。こういう流れで進めていくことについて意見をいただきたい。
- 自治会連合会: 全体的なことを言うと住民協議会へおろしたことについて動いているのはどこでも自治会。住民協議会が自治会をどう扱うのかはっきりしないといけない。43 住民協議会に同じ動きを求めるなら、市が方向を示してほしい。
- 自治会連合会: 今の住民協議会の中に自治会、住民協議会、公民館を入れてもらうのがよい。そのため市から示してほしい。それについて皆で話し合ったらよいが、市から示されないので、色々な意見が出てきているのが現状である。市から方向性を出していただければ、それに良い方向に向かっていくと思う。その組織運営、お金の流れなどはまた協議していく場を設けていただければ良い方向に向かっていくと思う。
- 公民館: 組織のベースにあるのは自治会でありその組織をなくすことは難しいと思う。お金の流れについては話し合っ一本化することも可能ではないかと思う。
- 公民館: 地域も大小、色々あると思う。住協の屋台骨も自治連がなかったら住協を支えられない。公民館、自治連、住民協それぞれ役割が分担されている。起案していくのは公民館、人をどうするかが自治連、住民協は学校や保育園などと連携を図っていくということ、また金銭的なことは住協が予算持っていて、支えているのは自治連。住民協の組織の中へ、今、青少年健全育成など部会へ移行している。人集めは大きいと寄りやすいのではという意見があるが、大きい組織になると組織づくりは難しい。組織の屋台骨をどこがどう担っていくのかということで、しっかり話していかないと前に進まない気がする。
- 公民館: 連合自治会、住協、公民館などの組織があって、大きな枠の中で行事など議論しながら進めている。その中でひとつでもなくなると困る。実際、連合自治会、自治会長がそれぞれやってきた。役員は苦勞している。高齢化社会の中で若い人は働き盛りで家にいない、そんな中で役員のなり手がいない。次へつないでいかななくてはならない。

皆に参加してもらおう住協にしたい。人はいるが出てきてもらえる人がいないというのが松阪の現状でないかと思う。解消する手立てがないか考えた時、費用弁償の話がでると思う。一部のボランティアで支えてやっていることを踏まえてほしい。

- 住民協議会:特に少子高齢化を見据えていくと、それを受け止める地域組織、共生社会の実情をどうしていくのか。それは行政が何らかの方向性を示さないといけない課題だと捉えている。
- 副市長:今後高齢化に伴って、色々な問題がでてくる。行政だけで隅から隅までできない。地域の方みずからがどう解決していただくか、それを協議してもらおうのが住協と捉えている。市の方も地域の実情、規模によって、地域全体を考えてもらうところへお金を出し、資金を割り振ってもらう。その方が地域も独自性も強く、協議しやすいと思う。
- 住民協議会:住民協議会の地域の課題はあるが全体をながめた時、将来の見通しと課題を抱えていて今それを検討している。
- 自治会連合会:副市長が説明されたその組織を示してもらったらよい。
- 公民館:連携を図りながら、役割分担していくのがよい。それを統括するのは新しい組織であるという考え方も必要。自主財源もある程度必要だろう。地域の中で資金繰り、しっかりと今ある組織をいかに活用していくか、何年間か積み重ねてきたものを生かしていく組織づくりが必要。
- 自治会連合会:住民協議会は地域の色々な団体組織が課題をみつけて話し合っ解決する完璧なものならよいが。自治会の意見を発表する場もない、上からの命令指示のみ、これが根源になっている。
- 住民協議会:今に捉えると見失うので、そこはきちんと整理して現状の課題を考えて一番よい組織を考えなければならない。
- 自治会連合会:意見集約する場であり、上から発信する場でないとした方がよい。
- 住民協議会:住民協議会の認定条件の中に、その地域の自由な意見交換ができる民主的な運営となっているとはっきりうたってある。
- 自治会連合会:自分の自治会でも毎月 2.3 回理事会を開いたり大きな事業する時は専門委員会開いて話を進めながらやっている。1 世帯当たり 400 円を集めてまちづくり協議会に渡している。今まで無償だった会長と部長には年間少し渡すよう決めた。そういう組織で動いていこうとしているので、それを今更やめようとなると困る。他の地域もやれると思う。
- 住民協議会:やはり地域に応じたやり方がある。全体的に地域としては将来の見通しと課題をきちんと整理して一番松阪市に応じた組織は何かという形を構築していくのがこの会の役割だという気がしている。

- 公民館:自治連と住民協が力を合わせて前へ進まない住民自治がよくなるという考え方がなくなってきた。
- 住民協議会:全体を考えてこの地域にとってどんな役割組織がいいのか考えていきたい。
- 自治会連合会:最初の会議から統一してないのだから行政側から一本化するということは難しいことだと思う。冒頭に言ったように連合会はたくさんの意見を資料にまとめている。これをもとに行政から第1ステップはこれにしたいと定義をさせていただいたら、それに対して議論させていただく。
- 副市長:今回ご意見をいただいたその結果も含めて、もう少し先に進んだ形を市の方からご提示させていただく。
- 自治会連合会:住民協議会ができたことによる市のメリットを示していただけると意見がでた。
- 自治会連合会:横のつながりがない。お金の流れも再検討していただければと思う。

事項書4. 今後の進め方について

- 事務局:自治会連合会からいただいた内容をしっかり吟味し、皆さんからいただいたご意見も再度検討させていただく中で今後もこのまま継続し、平成30年度もこういう場をもたせていただきたい。

事項書5. その他

- 住民協議会:時間軸を示してほしい。一線をしり除いたものが次の世代に育っていく人を助けていただきたいと思っている。そういう観点で75歳までの人が活躍できる場を組織できないか、その人たちが次を育てていく、世代に引き継げるよう組織のあり方を考えてほしい。
- 住民協議会:子どもの時から地域、住協全体で育てることをめざさないと、次へつなげていかないと思う。
- 住民協議会:2025年問題は避けて通れないと思う。それに間に合う組織、耐えうる組織にしておかないといけない。
- 自治会連合会:今の若い人らが地域に関わりにくい組織になっている。

《14:50 終了》